

# 幌尻岳登山

2015.7.11～13 F・Dさんと

日本百名山挑戦中のF・Dさんのサポートで7/9 新千歳空港に迎えに行き、ルソツのペンションに連泊する。7/10は後方羊蹄山登山、私はカムエク登山で左足親指を痛めて治療中なので大事を取って登山口までの送迎役になる。一番登山者が多く、登山道も整備されている倶知安(比羅夫)コースなら二人で大丈夫だろうとの事で、案の定登山者が準備中。私は二人の下山まで何処かで時間つぶしと思ったが快晴だし簡単に登れる山ニセコの「イワオヌプリ」に登ることにする。(近いうちにHPに掲載します) 倶知安登山口への往路に見た建物が気になっていたのも、下山の迎えに戻る時にその建物に寄ってみる。「蝦夷富士小屋」と小さなプレートがあった。やはりそうだった。実は後方羊蹄山の番組が2本ほどあり見たが、ガイド役は後方羊蹄山の避難小屋の管理人だった。彼は登山口に家を建てて山荘を経営していた。奥さんが主にかかわっているようだ。彼は登山シーズンは小屋に常駐するので。林の中の1軒屋が印象的だったので通った時におや?と感じた。

蝦夷富士小屋



倶知安コース登山口



二人は高齢なので12時間以上かかって17:30に下山した。

翌朝は 5:00 に宿を出て苦小牧駅前のホテルに泊まっている知人から持ち忘れた「コッヘル」を借りて幌尻岳の登山口である平取町のとよぬか山荘へ向かう。

とよぬか山荘とバス



シャトルバスと待合室



7/11 (土) 晴れ 留寿都の宿 5:00~苦小牧駅前の知人のホテル~8:30 とよぬか山荘 9:30~シャトルバス~10:15 登山口 10:30~13:00 取水口 13:20~14:10 渡渉開始地点 (沢靴に履き替え、イワナ釣りを少しする) 15:00~17:00 幌尻山荘 (泊)

幌尻山荘へ



感激 ヒダカハナシノブ?



15回ほど渡渉します



渡渉します



幌尻山荘

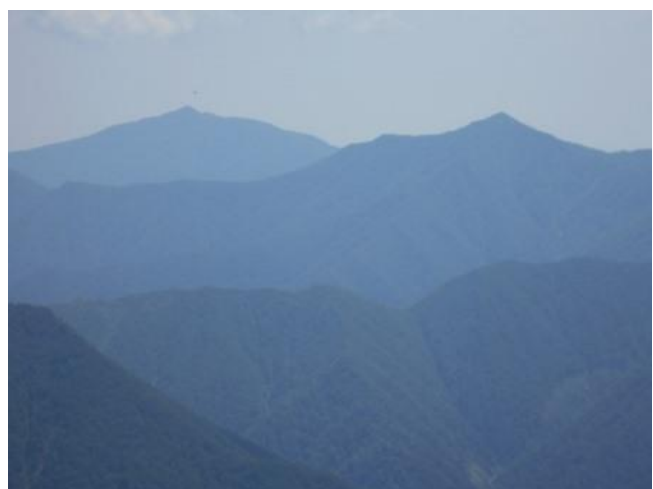


7/12 (日) 快晴 5:00~7:00 命の泉 7:20~10:40 幌尻岳 (日本百名山、2052M) 11:30~14:10 命の泉 14:20~ (私だけ先に下山する) 15:20 幌尻山荘 (二人は 16:25 下山) (泊)

幌尻岳山頂



左奥がカムエク



左、戸蔦別岳とカール底



カールと幌尻岳（中央）



7/13（月）曇り、少し霧雨あり 4：15～6：45 取水口 7：15～9：30

バス停 11：00～バス～11：50 とよぬか山荘 12：10～びらとり温泉で入浴～15：

00 新千歳空港（解散）～15：40 小樽市の小さな旅の博物館（泊）

私は日本百名山の時に（1998年8月）1泊で登っているが、高齢（80と74歳）の為に2泊とする。二人にとっては15～16回ある渡渉が心配なようだ。念の為にロープ・シュリング・カナビラ等を持参した。とよぬか山荘は昔の小中学校の後利用で駐車場・宿泊設備・バスの発着場として利用されている。実はピセナイ山下山後に入った日高町門別の「とねっこの湯」にデジカメを忘れてきてしまった。とよぬか山荘へ着払いで送ってもらうように頼んであったので事務室へ受け取りに行く。ついでに充電もしてもらう。今回の旅では忘れ物も多かった、ボケの始まりだ。幌尻山荘は食事は出ないので荷物が多くなり重いザックを背負って林道歩き、途中ミ

ヤマハナシノブ（ヒダカハナシノブかも？）が何箇所かで咲いているのを発見。Fさんと大感激する。（ミヤマハナシノブは本州では白馬の清水岳と北岳大樺沢にしかなく、私はわざわざ見に行った、又Fさんから実生で育てた物を今年頂いた）渡渉開始地点で準備休憩の時にイワナを釣る、今回はこれも楽しみ。何しろ35CM位のイワナが悠々と泳いでいるのが目撃できるのだ。1投目35CM位のを狙ったが「早合わせ」で針掛かりせず、2投目から釣れるのは皆30CM以下物ばかりだが面白いように簡単に釣れる。8匹釣って竿をしまう、この先渡渉区間が始まるので。水量は多くないがやはり渡渉に慣れない二人は大変なようで、流されないようにサポートする。ところが何でも無い所で私が水たまりに落下する。（川の中ではない）全身水浸し、上手に落ちたので怪我はなかったが人工内耳の機器が落ちて水の中にあった。私は泊まりでの山行時は必ず予備の機器（今のに買い替える前の古い機種）を持参しているのでそれで代用する、会話は可能だ。大勢の宿泊者が小屋の外で宴会をやったり、夕食を食べている懐かしい幌尻山荘に到着。私はパンツまで全身着替える。二人にイワナの刺身を作るように頼む。所が管理人が来て「釣りはダメ、50万円の罰金」今回は目を瞑るがと言ってくる。私は20年近く長野県自然保護レンジャーをやってきたが、イワナを釣ってはいけないという話は一度も聞いたことが無いが指示に従うようにする。とよぬか山荘に後から着いた松本ナンバーの単独が一つ遅いバスに乗ったのにもう着いた、一緒に夕食を食べる。彼は明日幌尻岳〜戸蔦別岳と周回して17:00のバスで帰るとの事、足の速い人だ。本音を言うと私も周回したかったが。今回も缶ビールは1本だけ持参なので、今日は我慢してまたたび酒を飲む。Fさん達はイワナがヌルヌルするので刺身にするのに苦労したとの事、

美味しく頂く。早めに小屋で寝る事にするが、トイレの臭いが気になる、そう言えばバスから降りた時に、下山してきた登山者がバスの運転手にトイレが臭いと言って文句を言っていたのを思い出す。後で分ったが1階の端にトイレがあった。私は外便所だけだと思っていたが。

12日は快晴、出発も登山中も最後部、カールを見下ろす稜線からはお花畑が続く、規模は大きい。Fさんは花に詳しいので聞きながらユックリ登る。展望も素晴らしい。懐かしい山頂に到着、目の前の山が先日登った「カムエク」ではと思い、地図と磁石で確認すると方角がピッタリ、思わず「ヤッパリ カムエクだ！」と言うと前にいた人が「そうですよ カムエクです」と振り返って言ってくれた。後で分ったが彼はツアー客のガイドだった。下山も花や展望を見ながらユックリ、カール底にヒグマがいないか時々見るが見当たらない。命の水 水場で冷たい水を補給する。二人が先に下山しても良いと言うので私は先に下山する。幌尻山荘に着くと登山客が管理人から缶ビールを受け取っているので私にも分けてくれるかと言うと700円だと言う。何と冷えたビールを販売していたのだ！昨日はそんな事とは知らずに我慢していたと言うのに。管理人に愚を言ったら小屋内に張り紙してあるとの事。でもHP等の不親切は認めて罪滅ぼしに私の持参した1本は冷やしてくれた。700円と高いが背に腹は代えられず2本買って合計3本遅れて下山した二人を待つ間に飲む、山で飲む酒は美味しい。今夜は寝床も二階にしてもらった。

13日 曇り、下山日、雨の心配もあり、早めに歩き出す。案の定時々パラパラきたが雨具を必要とはしなかった。途中で何組かに追い越される、それらの人は一本早いバスに乗ったようでバスの待合室にはいなかった。歩くのが遅くなると日帰り

可能な山は1泊に、幌尻岳のように通常1泊が2泊になり、同じような時間に出ても乗るバスが遅くなる。我々がバス停に着いたのは9:30、11:00発のバスまで1:30の待ち時間を待合室（プレハブ造り）で過ごす。二人は天候・花花に恵まれて良かったようだが、私にとっては正直言って5日間もサポートの為に取られてしまい、登りたかった山や入りたかった温泉や寄りたかった観光地にも行かれずでチョット複雑な心境だった。

赤沼健治